



すこやか

苅田町青少年育成町民会議だより



エル苅田前にて



いじめストップ キャンペーン



▲小波瀬西工大前駅にて



▲苅田駅前にて

大人が変われば、子どもも変わる

有害図書・图画等の追放運動

7月27日(金)に町内十三ヶ所の書籍類販売店を訪問し、

青少年にとって有害な悪書・ビデオ等の追放運動に協力を依頼し、併せて店内を見学させていただきました。

各店とも常日頃より青少年に対する配慮を心掛けて下さっているようです。大人の皆さんが常に心掛け、気付いた事がありましたら町民会議事務局へご一報下さい。



非行防止・シンナー等薬物乱用防止研修会

我々大人も今一度シンナーの性状等を見直し、保管管理をより厳しくすると共に、家庭での正しい取り扱いを教えることも大切ではないでしょうか。

講師に京都薬剤師会副会長・五反田仁一郎氏を招き、「薬剤師によるシンナー等薬物乱用防止指導」をテーマに、PTA連合会・生徒指導研修部会・補導環境部会員を中心に、80名の方が参加されました。シンナーの身体に及ぼす害がどのようなものなのか、実験を交えながらの説明に、改めてシンナーの恐ろしさを痛感しました。

我々大人も今一度シンナーの性状等を見直し、保管管理をより厳しくすると共に、家庭での正しい取り扱いを教えることも大切ではないでしょうか。

われました。

8月10日(土)に中央公民館にて、研修会が行

大人の皆様へ

青少年の育成は、大人一人一人の責務

次代を担う青少年が、社会における自らの役割と責任を自覚し、豊かな個性と能力をつちかい、非行におちいることなく、心身ともに健やかに成長することは、社会全体の願いです。一人一人の子どもたちは、各家庭の宝というだけでなく、社会全体の宝だと言えます。まず、大人自身が、社会の基本的なモラルやルールを身をもって伝えていくという姿勢を示すことが求められています。

また、より多くの皆さん
が、それぞれの立場で、
青少年が健やかに育つための行動に積極的に取り組むことが望されます。



家庭のあり方をふり返ろう

家庭は、子どもにとって人格形成の行われる最初の場所です。親は、子どもの基本的な人格形成については自らに責任があることははっきりと自覚しましょう。また、基本的な生活態度や社会規範などを子どもに伝達していく責務を、子ども本人に対してだけでなく、社会に対しても負っていることを強く認識しなければなりません。特に今、父親の子育への参画が強調されています。

家庭でのしつけ、ふれあいと信頼関係の大切さなど、家庭のあり方を見直しましょう。

地域で一体となって青少年の育成を

青少年の健全育成のためには、家庭や学校、関係機関などの努力だけでは足りません。

地域において、日ごろから子どもたちを温かく見守り、励まし、ときには注意したりすること、有害な情報や環境から子どもたちを守ることなど、より多くの人々が様々な地域活動に関わることが、青少年の健全育成に大きな力となります。

また、子育てについて相談相手もなく孤立した親を経験のある人たちが支えたり、父親同士で子どもの育成に取り組んだりする地域活動なども望まれています。

青少年の多様な社会参加活動を支えよう

変化の激しいこれからの時代を支える青少年の育成のためには、様々な社会参加活動を通じて、より多くの青少年が自律性や社会性をはぐくむことができるようになります。

そのためには、より多くの大人たちが、青少年と一緒にになって、ボランティア活動、スポーツ・文化活動などの社会参加活動に取り組むことも望まれます。



11月

全国青少年健全育成強調月間
青少年を明るくのびやかに育てよう

荔田町青少年
育成町民会議

平成14年度 荏田町「家庭の日」・「オアシス運動」町内入選者一覧表

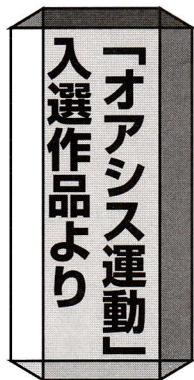
		会長賞	教育委員会賞	家庭部会賞	金賞	銀賞	銅賞	佳作
作 文	苅田小 6年	苅田小 6年	苅田小 6年	片島小 5年	与原小 3年	苅田小 5年	新津中 3年	
	さよはら 喜代原 けんと 拳人	かつの 勝野 りな 利奈	くわばら 桑原 こうき 康樹	うつのみや 宇都宮 たいち 太一	かわぐち 川口 たかみ 嵩文	はらだ 原田 みか 美香	たなか 田中 けいこ 敬子	
ポスター	新津中 2年	新津中 3年	南原小 3年	白川小 1年	南原小 5年	新津中 2年	新津中 2年	
	くわばら 桑原 あや 彩	うえの 上野 ともひろ 優弘	おがた 緒方 みずき 水紀	ゆき 幸 てつお 哲寛	すえまつ 末松 たけのり 丈典	ふじむら 藤村 えり 衣里	おかの 岡野 さおり 沙織	
標 語	小学生	白川小 6年	南原小 6年	白川小 4年	白川小 4年	白川小 5年	白川小 5年	苅田小 5年 井上航
	ふじむら 藤村 りょうま 龍馬	やまだ 山田 めぐみ 恵	ふじむら 藤村 しんたろう 慎太郎	もり 森 ゆきな 由希奈	ももどみ のりあき 百富 乃璃彰	とみむら 富村 かずね 和音	片島小 5年 新香織 与原小 6年 國松えみ	
	中高生	苅田中 3年	苅田中 3年	苅田中 3年	苅田中 3年	苅田中 3年	苅田中 3年	白川小 6年 田中紀久子
	かわさき 川 あい 愛	たなか 田中 えいこ 詠子	にしの 西野 あつし 篤史	はたけだ 畠田 ともひこ 朋彦	いとう 伊藤 あつなり 功育	ながはま 永濱 ゆか 由佳	苅田中 3年	
書 道	1年生	苅田小	与原小	苅田小	与原小	苅田小	南原小	苅田小
	ながた 長田 こうへい 康平	みやもと 宮本 ゆうう 祐有	ありひさ 有久 えいし 英志	おがた 尾形 りょう 峻	は びろ 羽廣 りゅうき 隆綺	いのうえ ななみ 井上 菜々美	えぶち まいいこ 江渕 麻衣子	
	2年生	南原小	苅田小	苅田小	苅田小	苅田小	与原小	南原小
	ちよまる 千代丸 ゆみ 祐実	すどう 須藤 あい 愛	ありのぶ 有延 たいむ 大夢	かわた 川田 ゆい 唯	ごとう 後藤 いくみ 郁巳	みよし 三吉 さやか 爽香	うえだ みかこ 上田 実花子	
	3年生	苅田小	馬場小	馬場小	与原小	苅田小	与原小	与原小 増田 有莉
	おおつ 大津 みほ 美歩	くろせ 黒瀬 ももか 桃佳	むらせ 村瀬 もえ 萌	ながさか さちこ 長坂 紗智子	えとう 江藤 もも 萌々	おおつぱ 大坪 ふみか 史果	片島小 吉梅 喜衣	
	4年生	苅田小	苅田小	馬場小	南原小	苅田小	馬場小	馬場小 大下有紀子
	いづみ 泉 ひろゆき 弘幸	やまだ 山田 さゆみ 紗弓	なかむら 中村 あきら 晃	むかい 向井 ゆうた 優太	うしじま 牛島 ようこ 陽子	かなまつ 金丸 ともみ 朋未	南原小 岩田 朋子	
	5年生	苅田小	与原小	苅田小	片島小	苅田小	片島小	馬場小 萬納寺美樹
	あらまき 荒巻 ちはる 千春	ますだ 増田 りさ	ふじい 藤井 さあしゃ 紗沙	むぎた 麦田 かずひさ 和寿	しまむら 鳴村 あづさ	うつのみや 宇都宮 たいち 太一	与原小 東 良樹	
6年生	苅田小	与原小	南原小	与原小	南原小	苅田小	与原小 石井 里美	
	いまむら 今村 のりひろ 憲弘	いもと 井本 あき 有紀	いまむら 今村 しゅうへい 周平	おおうえ 大上 こうき 巧貴	むかい 向井 りょすけ 亮介	よしだ 吉田 かすみ 香純	苅田小 荒牧孝爾	
中 学 生	苅田中学 2年	苅田中学 1年	苅田中学 3年	苅田中学 1年	苅田中学 3年	苅田中学 1年	苅田中 1年 河本笑佳	
	やました 山下 ひろえ	ひろもと 廣本 こかな子	ごとう 後藤 はるな 春菜	やまもと 山本 ようこ 陽子	ふじおか 藤岡 りょうすけ 良輔	おだ 小田 あおい 葵	苅田中 1年 徳富理恵	

ほくの家族は、仲が良い。でも、今年の夏は、もつと仲が良くなつた。そのわけは、一泊二日の旅行に行つたからだ。朝早く起きたみんなは、ウキウキしていた。ホテルの外のプールでは、みんな笑っていた。また、いちだんと、仲が良くなつた。部屋の中では、みんなでいる時間が長かつたのでまた、仲が良くなつた気がする。

プールには、自転車で行つた。みんなで自転車に乗つたのは、初めてだつた。妹は、まつたく自転車にも、三輪車にも乗つたことがないのに、いきなり、「自転車に乗りたい。」と、言ひだした。しかたなく、お母さんが、ほ助付自転車を借りてくれた。そして、妹はほくたちと乗れるよう練習をした。妹が、うまく乗れないでの、手本をみせてやると、おろおろしながらなんとか乗つて遊んでいた。ほくは、それを見ながら、小さいしかわいいなーそれに、

会長賞

家族とのふれあい



標語

あいさつは、心がはずむ 贈り物
ありがとう 言えば周りに 笑顔

あいさつは
友達作る 第一歩

あいさつは みんなの心 つなぐ橋
笑顔であはせつ あかるハ一日

だれにでも 元気に言おう おはようヒ

だんらんの えがおが作る 家族の輪
うはくりのう、まつ今日、一日で、気合

おはようのあいさつ 今日も一日よい気分
あいさつは 人の心をつなぐもの

につこりとほほえむ笑顔がうれしいな

◆中学・高校の部

ありがとう 心に響く 人の声

かわいた心のオアシスだ
あいさつは
きらをつなげる IIの巻

ありがとうございます。感謝の気持ちも大切に

はじめよう 心のこもつた あいさつを

友達に
助けられたら ありがとう

こけないようになつと付いてや
やつ

りたいなと思つたその時、やつぱりこけた。夕方、ぼくは腹が

痛くなつた。お母さんやお父さ
く、弓の矢、弓を引いてしまふ。

ん
弟や妹も心配してくれた。
心配してくれてありがとうと思
には

つた。遊園地の乗り物にも、みかづく

みんなでいつしょに乗ることかで
きた。それは、今まで妹が小
つて

さかつたので、だれかが妹といつたのは二歳のまゝ二ヶ月ごつ

少しあは残らないといけなか
たからだ。みんな笑っていた。

教育委員会賞 「人と人とのあいさつ」

苅田小6年 勝野 利奈

わたしは、朝、学校に行つたらあります。でもわざとあいさつをします。でもなんであいさつをするのかなあと思いました。そこでちょっと考えてみました。わたしは先生や友達に「おはよう」とか「おはようございます」とか言うと先生は「おはようございます」とか友達は「おはよう」と言つてくれます。その時はうれしいです。

でも反対に、わたしが友達に「おはよう」と言つて友達が「おはよう」と言う時はちょっとやであります。と言うようにあいさつはうれしい時とかなし時の場合はまた今度その人にあいさつをしてみればいいと思いました。

でもわたしは、たまに先生が「おはようございます」と言つても「おはようございます」と言つてない時もありました。だからその時先生は多分いやな気持ちだつたと思いました。だからこんどからは、ちゃんとと言おうと思いました。でもこれであいさつが大切だということが分かりました。だから一人一人が、あいさつをすれば、みんなうれしい気持ちで、教室に入れると思いました。でもそうゆうこと言つてもしない人たちがいます。そのためかは分からないけ

ど先生たちがいつも信号の所であいさつをしています。そう思つたら先生たちはすごくいいことをしていると思いました。

赤十字委員会とかも毎日朝信号の所であいさつをしていました。あとからとにかく一人一人があいさつをすれば何も問題ないと思いました。だからわたしもこれからはあいさつをしようと思いました。

あと、あいさつうんどうも続けてほしいと思いました。

家庭部会賞 僕の兄弟

苅田小6年 桑原 康樹

僕の家は六人家族で、お父さんとお母さんとお兄ちゃん三人と僕です。みんな二年ずつ学年がちがうので、学校では、自分の名前で呼ばれる時と、○○ちゃんの弟と呼ばれる時があります。でもわたしは、たまに先生が「おはようございます」と言つても「おはようございます」と言つてない時もありました。だからその時先生は多分いやな気持ちだつたと思いました。だから

でもわたしは、たまに先生が「おはようございます」と言つても「おはようございます」と言つてない時もありました。でもわたしは、たまに先生が「おはようございます」と言つても「おはようございます」と言つてない時もありました。だからその時先生は多分いやな気持ちだつたと思いました。だから

でもわたしは、たまに先生が「おはようございます」と言つても「おはようございます」と言つてない時もありました。だからその時先生は多分いやな気持ちだつたと思いました。だから

でも、少し心配なことがあります。それはおじいちゃんもお

父さんも年をとつてきたことです。ふたりとももうすぐ七十才になります。おばあちゃん

は、つかれやすく、すぐ横になつたり、病院にいつたりしていきます。おじいちゃんは、まだまだ元気で、ぼくとキヤツチボールをしたり、サッカーをしたりします。しかし、「こしが痛い。」

とか「足が痛い。」とか言つて、よくマッサージを行つています。

ぼくは、少しでもおじいちゃんを楽にしてあげたいと思い、お盆にはお寺の仕事を少し手伝

いました。去年の夏休み、京都

で得度式を受け、毎朝難しいお

経をおじいちゃんから習つてい

ます。難しいお経を読めるよう

つてからけんかする数が減りました。食事も朝は、小学生は僕だけなので、お兄ちゃんたちが学校に行つた後一人だし、夜もたばらばらな時間で過ごすことになります。それで、夏休み最後の日曜日にレストランに行つていろいろ話をしながら食事をしました。特に面白かったのは、レストランの庭に置いてある、

夕食の時間です。家族四人でその日にあつたことをいろいろ話します。夕食が終わると、散歩に行くこともあります。また、

みんなで食事に行つたり、旅行に行つたりします。夏休みには、黒部ダムに行き、楽しい思い出ができました。

ほくの家では、家事を分担して

います。おじいちゃんは、お寺の仕事や野菜作り。おばあちゃんは、買い物や食事の用意。お

ばくの家族は、平凡だけどみ

んなで助け合い、笑いのたえな

い楽しい家族です。ぼくは、こ

んな家族が大好きです。

になつて、来年はもつともつとお寺の仕事の手伝いをしたいと思つているからです。

ほくの家では、平凡だけどみ

んなで助け合い、笑いのたえな

い楽しい家族です。ぼくは、こ

んな家族が大好きです。

ほくの一日の始まりです。

ほくの一日の

新津中学校部活紹介

ふれあい インタビュー 19

(一)内は一年生・二年生の合計人数です。

◆野球部(二十名)

今年は目標でもあった京築地区初の3年連続県大会出場を決める事ができました。新チームでは九州大会を目標にすえ頑張っています。応援よろしくお願ひします。

◆陸上部(二十名)

新人の県大会を目指して頑張っています。(10月20日北九州本城)

男子・砲丸投げ・三種競技B

走り幅跳び

女子・100m・200m・80mハーレー、三種B

◆女子バレーボル部(十二名)

ここ数年、何度も県大会出場を果たし、たくさんの先輩方が高校でも活躍しています。練習は厳しいですが、キャンプ等のレクも多く、楽しくまたやりがいのある部です。「礼儀」を大切にしています。

◆女子ソフトテニス部(十三名)

基本的な技術を身につけることを目標に頑張っています。10月の下旬に新人戦があるので、試合に参加できるよう今練習に励んでいます。

◆男子ソフトテニス部(三十一名)

週4回体育館で練習しています。昨年の新人戦の郡大会で優勝しましたので、今年の新人戦は、ぜひ、地区で勝つて、県大会に出場したいと思っています。

◆女子バトミントン部(三十四名)

人數が多いため練習場所の確保に苦労し、11月の新人戦では県大会へ出場できるよう日々努力を重ねています。応援よろしくお願いします。

◆家庭科部(一名)

今年は作ったお菓子を持って、苅田町の老人福祉施設「博愛苑」を訪問させていただきました。またこれからもこういった活動を続けていきたいと思っています。

◆美術部(二十五名)

目標は「いろいろなコンクールにチャレンジしよう!」です。

◆サッカー部(十二名)

少ない人数ですが、活気あふれる部です。新人戦では、県大会出場を目指し、全力で行くので、ご声援、宜しくお願ひします。



サッカー部

◆剣道部(六名)

声の大きさは負けまいと、気合を入れて頑張っています。大会では、「心、技、体」の精神で、一人一人の良さを發揮して上位をねらいます。



剣道部

◆女子バスケット部(七名)

少ない人数ですが、地区大会出場を目指し日々練習に励んでいます。技術の向上とともに、規律、礼儀など、人間とともに資質の向上を心がけています。



女子バスケット部

続くので、よりよい結果を出したいと思っています。

◆男子バスケット部(二十五名)

ぼくたち男子バスケットボール部は、「県大会出場」を目標に毎日厳しい練習に取り組んでいます。また、中学生としての規律を守り、望ましい生活習慣を養うことも学んでいます。

今年は、新入生の入部が多くて、活気のある制作活動でとても活動的あります。ぜひ、ご覧下さい。

◆福祉ボランティア部(八名)

町内にある老人保健施設「博愛苑」との交流も三年目を迎え、生徒も自然に接することができます。また、今年は地域のボランティア「苅田あざみ政治学級」の方と花づくりを行い、共に活動しています。

◆ブラスバンド部(四十三名)

毎日、みんなで楽しく練習しています。目標は毎年夏に行われる吹奏楽コンクールで金賞をとること。今は11月の小中高連合音楽会に向けてがんばっています。



ブラスバンド部

アンビシヤス広場の開設にあたり

苅田青少年育成会連合会

会長 田口朝子



「昔の遊びコマ回しに挑戦」馬場小にて

週5日制を迎える、子ども達の自然体験や集団遊び、地域とのふれあいを念頭に置き開設しました。イベントを設けた企画、日程などいろいろと変更しました。子ども達は形にとらわれず自由に遊べることがお気に入りです。自発性がありストレスの少ない方法だと思います。ルールを守れず涙する子、それを癒す子、中にはリーダーシップのそなわった子、いろいろです。今と昔の違いは、思い切り遊んでいい子が多いことではないでしょうか。受け入れることが多く、自発的に発散する方法を見失っているのではと考えてしまいます。しかし、遊びの中にジユニアリーダー達が入るとやきもちを焼きたくなるほど活発化します。汗ビッショリで遊んでいます。

中高生のボランティアがとても欲しいです。

地域の協力も少しあります。ですが、プレイリーダーとして引っ張つてくれる育成者も欲しいです。

アンビシヤス広場での参加者は十人～二十人のあいだですが、子ども達がつっていく会、地域の活性化へつながらしていく索していきます。

めだかすくい in スポーツフェスタ

10月13日(日)に第二回スポーツフェスタの一環としてめだかすくいを行いました。

小さいため始めは皆苦戦していましたが、なかには十匹以上すぐう強者も。金魚とはまた違った感じを楽しめたようです。



めだかは、なかなか素早かった！

そば打ち体験

11月3日(日)総合体育館にて行われた子供フェスタで子ども達とそば打ち体験を行いました。



なかなか細く切れな~い。

昔、子ども達の世界には大人が関与する事なく楽しい世界が作られました。今、子どもの世界は大人が監視と関与で見守り、正しい道を歩む事に責任を負う社会へと変化しました。

町民会議では種々の生活体験に取り組んでいます。この活動が大きな実を結び、子どもが遊びと豊かな感性を身に付け健やかに成長できる事を願い、行事の紹介等がお役に立てばと思っています。

今年も残すところあとわずか、町民会議の行事も順調に進んでいますが、これを記事にしようとしないで、毎年同じような内容で苦労しています。

町民会議は、子供の健全育成のため、共に活動を推進してそれなりに実績を上げてきましたが、苅田に限らず最近は親子触れ合い行事がやたらと目に付きます。これが子どもの自主性を阻害しているのでしょうか？子供らが自分たちだけでグループを作り、クラブやボランティア活動にと一人歩き出来る場を準備してあげたらどうだろうか？そもそも活動を子供たち自身で進められるようにバックアップ体制を考えてもよい時期に来ているのです？

編集・発行

苅田町青少年育成町民会議

すこやか編集委員会

093-434-1111

(内線390)

編集後記